

## 構造と素材から見るガドゥルカ製作の実態

### ——「伝統的なもの」とは何か——

玉置彩乃 (東京藝術大学/ロンドン大学ロイヤルホロウェイ校)

本発表は、ブルガリアの伝統的な弓奏撥弦楽器であるガドゥルカを対象とする。20 世紀初頭以前のガドゥルカは、娯楽のために演奏される楽器として各奏者によって製作されるものであり、弦の本数や部品の形状といった構造上の標準化がされていなかった。しかしその後ブルガリアが社会主義国となったことで、ガドゥルカに西洋音楽的な美的基準に基づいた性能が求められるようになり、20 世紀半ばからガドゥルカの専門職人が登場するとともに、楽器の標準化や名器の誕生といった発展が見られた。そこで本発表では、発表者が 2022 年 9 月にブルガリア (ソフィア、ラズグラッド) で実施したフィールドワークで得られた情報を中心にガドゥルカ製作の歴史と現状を考察することで、ガドゥルカという楽器が社会的背景や音楽的需要の変遷をどのように反映して発展してきたのかを検証したい。

本発表は、①ガドゥルカの構造や歴史の概略、②フィールドワークの報告、③ガドゥルカ製作文化の変化と現状、④③における考察から浮かび上がるブルガリア音楽における「伝統的なもの」の議論、という四章構成を予定している。②では、今回のフィールドワークで三名の音楽家たち (演奏者、楽器製作者、教師などと厳格に分類できないことから、ここでは一括して「音楽家」と示す) に対して実施したインタビューの内容、その際に観察した複数のガドゥルカや工房の様子、およびフィールドワーク後に他の音楽家一名とメッセージャーを利用して連絡を取った際に得られた情報を紹介する。

なお本発表は、現在発表者が「2022 年度花王芸術・科学財団 音楽の研究への助成」を受けて進めている研究「ブルガリアにおけるガドゥルカの製作実践—共産主義文化政策が与えた影響に着目して—」の中間報告となる。